

経済学部（3つのポリシー）

教育の理念

経済学部は、建学の理念である「仏教」の教えと「禅」の精神に則り、転換期を迎える世界経済の中で経済学に基づいた学びを実践し、理論的な基礎知識からビジネス・地域社会の第一線で活かせる応用力までを身につけた新しい時代の経済社会を担う人材を育成する。社会や歴史についてしっかりと考えるための知識と知力を基礎に、それらを応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

経済学部は、本学の教育理念に基づいて定められた下記の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、各学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と経済学の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じてICT（情報通信技術）をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、これを発信、実践することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について社会人に求められる十分なレベルまでを修得している。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点							
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を 実践する力						◎	○	○
	DP2	幅広い教養と 専門知識	◎	◎						
	DP3	課題解決力、表 現力			◎	◎	◎			
	DP4	多様な他者を 尊重し、協働す る力						○	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について—すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために—（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学部は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけるために、以下の方策をとる。全ての学士課程の基盤となる教育の質向上を目指す、駒澤大学による「駒澤人育成基礎プログラム」を基礎としつつ、経済学部・学科の専門教育科目と密接に関連づけて接続させ、有機的に結びつけた4年間の教育課程を編成する。教育課程の体系性をわかりやすく明示するために、科目間の関連性や学修順序を示すナンバリング（順位づけ）や履修系統図（カリキュラム・マップ）を作成する。また、アセスメント・ポリシー（評価の方針）を策定し、これに基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、経済学部として教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人と

しての基礎的レベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICT スキルおよびICT リテラシーを身につける「ICT 教育」に関する科目を開講する。

- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育科目では、経済学を学ぶ上での基礎・基本となる導入教育科目を初年次に配置し、将来志望する業界や進路を念頭に置いたコース制によって専門科目の系統的な学習を促進する。さらに、各学科で将来の職業選択に関連する資格取得のためのコースを設置し、学外講師による最新のビジネス動向やコミュニティ経済を支えるさまざまな組織の動向を知るための講義を設置する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習・実習科目、及び新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) 演習科目（ゼミ）では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) e ラーニングシステム等の Web システムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ループリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テスト（ペーパーテスト等の直接評価により学生の知識・技能・態度等を測定）の結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学共通科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。	
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。	
		初年次教育科目			◎	高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。	
		キャリア教育科目	○			◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目			◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める
	保健体育科目					○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
専門教育科目	導入教育科目			◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。
	講義科目			◎			専門分野の知識を体系的に身につける。
	実験科目			◎			実験装置や器具の使い方を身につけ、実際にそれらを使用した研究を行う。
	実習科目			◎	○	○	専門分野の講義で身につけた知識を基に、実地調査や体験学習等を行う。
	演習科目				◎	○	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
	卒業論文・卒業研究・資格試験など		○		◎	○	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文の作成や資格試験の受験などを行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

経済学部は、駒澤大学入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 経済学部の求める学生像

(AP1) 駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、経済学部で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つ。

(AP2) 入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を有している。

(AP3) 課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識を持ち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。

(AP4) 他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

1) 入学前に修得することが望ましい教科

- ・国語：母国語の読み書きはすべての教科の基礎となる。文献読解力、文章作成能力のみならず、自らの意見を発信する力を有していることが望まれる。
- ・外国語：英語を中心とした外国語に興味を持ち、基礎的な4技能（聞く・話す・読む・書く）を意識的に学んでいることが望まれる。
- ・数学：経済学的思考力を身につけるためにも、高校までの数学の授業を通じて基礎的な数学力を修得しておくことが望まれる。
- ・地理歴史・公民：社会現象を多面的な視点から理解し、政治、経済、地理ならびに歴史に関して幅広く学習していることが望まれる。
- ・情報：情報の価値や使い方に関する基礎的な知識を修得しておくことが望まれる。

2) 取り組むべき活動や学習習慣

入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣について経済学科・商学科・現代応用経済学科ごとに指針を作成する。

経済学部 経済学科 (3つのポリシー)

教育の理念

経済理論ならびに経済の歴史に関する広範な知識を踏まえて経済社会の現状や仕組みを理解し、社会的課題を発見・解決する能力をもった、公正で豊かな社会を担える自立した社会人を養成する。経済学に関する基礎的な知識と知力を備え、それらを応用し実践する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

経済学科は、本学の教育理念に基づいて定められた下記の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と経済学の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じてICT（情報通信技術）をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、これを発信、実践することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について社会人に求められる十分なレベルまでを修得している。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点							
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を 実践する力						◎	○	○
	DP2	幅広い教養と 専門知識	◎	◎						
	DP3	課題解決力、表 現力			◎	◎	◎			
	DP4	多様な他者を 尊重し、協働す る力						○	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について—すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために—（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学科は、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけるために、全ての学士課程の基盤となる教育の質向上を目指す「駒澤人育成基礎プログラム」を構築し、各学部・学科の専門教育科目とシームレスに接続させ、有機的に結びつけた4年間の教育課程を編成する。教育課程の体系性をわかりやすく明示するために、科目間の関連性や学修順序を示すナンバリングや履修系統図（カリキュラム・マップ）を作成する。また、アセスメント・ポリシー（評価の方針）を策定し、これに基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次を開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的レベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICTスキルおよびICTリテラシ

ーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。

- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育科目では、経済学を学ぶ上での基礎となる導入教育科目を初年次に配置し、また経済学の主要な分野別に設けられたコース制によって、将来志望する職業分野で役立つ専門科目の系統的な学習を促進する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習・実習科目、及び新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) 演習科目（ゼミ）では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステム等の Web システムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学共通科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。	
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。	
		初年次教育科目			◎	高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。	
		キャリア教育科目	○			◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目			◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める
	保健体育科目					○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
専門教育科目	導入教育科目			◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。
	講義科目			◎			専門分野の知識を体系的に身につける。
	実験科目			◎			実験装置や器具の使い方を身につけ、実際にそれらを使用した研究を行う。
	実習科目			◎	○	○	専門分野の講義で身につけた知識を基に、実地調査や体験学習等を行う。
	演習科目				◎	○	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
	卒業論文・卒業研究・資格試験など		○		◎	○	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文の作成や資格試験の受験などを行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

経済学科は、駒澤大学及び経済学部入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 経済学科の求める学生像

(AP1) 駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、経済学科で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つ。

(AP2) 入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を有している。

(AP3) 課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

地域社会、国際社会、産業界を含めた経済社会、および歴史について問題意識を持ち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。

(AP4) 他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

1) 入学前に修得することが望ましい教科

- ・国語：レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を取得し、自らの考えを論理的かつ明確に伝えることで他者と主体的に協働することができること。基礎的な文献の読解力と自らの意見を発信する力を有していること。
- ・外国語（英語）：多様性への理解とこれを尊重する能力を取得し、そうした能力取得へのアプローチのひとつとしての英語を中心とした外国語に興味を持ち、基礎的な4技能（聞く・話す・読む・書く）を意識的に学んでいること。
- ・数学：経済学の知識を体系的に身につけるため、高校までの授業を通じて日常生活や経済社会の事象などを数理的にデータとして捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決しようとする論理的思考力を身につけていること。
- ・地理歴史・公民：入学前から主体的に経済社会現象に対して多面的な視点から興味を持ち、経済、政治、地理ならびに歴史に関してできるだけ幅広く学習していること。
- ・情報：多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じて情報通信技術を効果的に使い、経済社会における問題の発見・解決に活用できるようになるため、パソコン等の情報端末の使い方に関する基礎的な知識を身につけていること。

2) 取り組むべき活動や学習習慣

大学での学びを通じて、幅広い教養を身につけ新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界を含めた経済社会の発展へ主体的に貢献できる人材になるため、入学前に私たちの経済社会がどのように構成されているのか、どのように動いているのかという点に興味

を持って新聞や経済社会ニュースに目を通し、わからないことがあったら自分で調べるとい
姿勢を身につけておくことが望ましい。

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

選抜区分		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	選抜制度の目的および特徴
一般選抜	全学部統一日程	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
	T方式	筆記試験		◎	○		
大学入学共通 テスト利用選抜	前期	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
	中期	筆記試験		◎	○		
総合型選抜	自己推薦選抜 (総合評価型)	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的に、出願書類、小論文および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文	○	◎	◎	◎	
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	自己推薦選抜 (特性評価型)	出願書類	○	◎		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する、特に高等学校在学中に取得した資格等、特殊技能に秀でた学生の受け入れを目的に、書類審査および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
学校推薦型選抜	スポーツ推薦選 抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
	附属高等学校等 推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特に理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好な学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
	全国商業高等 学校長協会特別 推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、かつ商業に関する知識・技能に秀で、全国商業高等学校長協会の推薦を得られた学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	

	指定校編入学者 選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的とする。また多様な経験を有する学生受け入れにより、学内の活性化を図る。	
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎		
その他選抜	社会人特別選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、実社会での豊かな経験を有し、高い専門性を取得した勉学意欲旺盛な社会人の受け入れを目的に、出願書類、小論文等、筆記試験等および面接・口頭試問にて判断する。	
		小論文	○	◎	◎	◎		
		英語		○				
		面接・口頭試問	◎		◎	◎		
	国際型選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。	
		事前課題		◎	○			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎		
	外国人留学生選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れを目的に、出願書類、「日本留学生試験」結果、小論文等、および面接・口頭試問にて判断する。	
		日本留学試験 (成績)		○				
		小論文等		◎				
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎		
	編入学者選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、大学入学後の進路変更や学び直しを希望する学生、および多様な経験を有する学生を受け入れることを目的に、出願書類、小論文等、英語試験および面接・口頭試問にて判断する。	
		小論文等		◎				
		英語		◎				
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎		

経済学部 商学科 (3つのポリシー)

教育の理念

経済学に基づいた学びを実践し、理論的な基礎知識からビジネスの第一線で活かせる応用力まで、幅広い能力を養う。企業を中心にすえて市場に関わる現代社会の在り方を学ぶことで、理論的・実践的に考える力を身につける。社会や歴史についてしっかりと考えるための知識と知力を基礎に、それらを応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

商学科は、本学の教育理念に基づいて定められた下記の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と経済学の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じてICT(情報通信技術)をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、これを発信、実践することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)について社会人に求められる十分なレベルまでを修得している。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点							
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を 実践する力						◎	○	○
	DP2	幅広い教養と 専門知識	◎	◎						
	DP3	課題解決力、表 現力			◎	◎	◎			
	DP4	多様な他者を 尊重し、協働す る力						○	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について—すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために—（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

商学科は、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけるために、全ての学士課程の基盤となる教育の質向上を目指す「駒澤人育成基礎プログラム」を構築し、各学部・学科の専門教育科目とシームレスに接続させ、有機的に結びつけた4年間の教育課程を編成する。教育課程の体系性をわかりやすく明示するために、科目間の関連性や学修順序を示すナンバリングや履修系統図（カリキュラム・マップ）を作成する。また、アセスメント・ポリシー（評価の方針）を策定し、これに基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的レベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICTスキルおよびICTリテ

ラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。

- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育科目では、経済学を学ぶ上での基礎・基本となる導入教育科目を初年次に配置し、2年次より将来の職業選択に関連する、キャリア育成を目指した科目を含む専門科目で系統的な学習を促進する。2年次以降、公認会計士や税理士の資格取得を目指す「会計プロフェッショナルクラス」を開設する。
- 6) 3つのコースを開設する。「流通・情報コース」では、商品の生産・流通・消費の体系的な学習に加え、情報技術がこれらにもたらす影響について学ぶ。「会計・経営コース」では、会計や経営のプロフェッショナルを目指すために必要な専門知識を学ぶ。「金融・貿易コース」では、金融・証券・保険などの構造や理論を学ぶ。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習・実習科目、及び新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) 演習科目（ゼミ）では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステム等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ループリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学共通科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。	
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。	
		初年次教育科目			◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
		キャリア教育科目	○			◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目			◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める
	保健体育科目					○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
専門教育科目	導入教育科目			◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。
	講義科目			◎			専門分野の知識を体系的に身につける。
	実験科目			◎			実験装置や器具の使い方を身につけ、実際にそれらを使用した研究を行う。
	実習科目			◎	○	○	専門分野の講義で身につけた知識を基に、実地調査や体験学習等を行う。
	演習科目				◎	○	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
	卒業論文・卒業研究・資格試験など		○		◎	○	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文の作成や資格試験の受験などを行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

商学科は、駒澤大学及び経済学部入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 商学科の求める学生像

（AP1）駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、商学科で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つ。

（AP2）入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を有している。

（AP3）課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識を持ち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を商学の視点から他者にわかりやすく説明することができる。

（AP4）他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

1) 入学前に修得することが望ましい教科

- ・ 国語：社会における問題解決や他者との円滑なコミュニケーションを行うために必要となる基本的な読解力・表現力を身につけていること。
- ・ 外国語（英語）：十分な語彙力と「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の獲得を通じて、多様性を理解し、尊重しようとする姿勢を身につけていること。
- ・ 地理歴史・公民：社会でどのようなことが起きているのかに関心を持ち、自ら調べようとする主体性を身につけていること。
- ・ 数学：日常生活や社会の事象などを数理的にデータとして捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決しようとする姿勢を身につけていること。
- ・ 情報：情報と情報技術を社会における問題の発見・解決に活用しようとする姿勢を身につけていること。

2) 取り組むべき活動や学習習慣

大学での学びを通じて、幅広い教養を身につけ新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ商学を通して主体的に貢献できる人材になるためにも、大学入学時の能力として、私たちの社会がどのように構成されているのか、どのように動いているのかという点に興味を持って新聞や社会ニュースに目を通し、わからないことがあったら自分で調べるといった姿勢を身につけておくことが望ましい。

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

選抜区分		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	選抜制度の目的および特徴	
一般選抜	全学部統一日程	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。	
	T方式	筆記試験		◎	○			
大学入学共通テスト利用選抜	前期	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。	
	中期	筆記試験		◎	○			
総合型選抜	自己推薦選抜（総合評価型）	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的に、出願書類、小論文および面接・口頭試問にて判断する。	
		小論文	○	◎	◎	◎		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎		
	自己推薦選抜（特性評価型）	出願書類	○	◎		○		本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する、特に高等学校在学中に取得した資格等、特殊技能に秀でた学生の受け入れを目的に、書類審査および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎		
学校推薦型選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。	
		事前課題		◎	○			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎		
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。	
		事前課題			◎	○		
	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特に理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好な学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。	
		事前課題			◎	○		
	全国商業高等学校長協会特別推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、かつ商業に関する知識・技能に秀で、全国商業高等学校長協会の推薦を得られた学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。	
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎		

	指定校編入学者選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的とする。また多様な経験を有する学生受け入れにより、学内の活性化を図る。
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
その他選抜	社会人特別選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、実社会での豊かな経験を有し、高い専門性を取得した勉学意欲旺盛な社会人の受け入れを目的に、出願書類、小論文等、筆記試験等および面接・口頭試問にて判断する
		小論文	○	◎	◎	◎	
		英語		○			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	国際型選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	外国人留学生選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れを目的に、出願書類、「日本留学生試験」結果、小論文等、および面接・口頭試問にて判断する。
		日本留学試験（成績）		○			
		小論文等		◎			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	編入学者選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、大学入学後の進路変更や学び直しを希望する学生、および多様な経験を有する学生を受け入れることを目的に、出願書類、小論文等、英語試験および面接・口頭試問にて判断する。
小論文等			◎				
英語			◎				
面接・口頭試問		◎	○	◎	◎		

経済学部 現代応用経済学科 (3つのポリシー)

教育の理念

経済学の知見に基づき、現代経済社会の諸問題に対処する能力を養成する。現代的課題に対処すべく、営利事業分野だけでなく非営利事業分野でも活躍できる企業家精神旺盛な人材を育成する。社会や歴史についてしっかりと考えるための知識と知力を基礎に、それらを応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

現代応用経済学科は、本学の教育理念に基づいて定められた下記の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識・技能〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と経済学の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じてICT(情報通信技術)をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、これを発信、実践することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)について社会人に求められる十分なレベルまでを修得している。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点							
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を 実践する力						◎	○	○
	DP2	幅広い教養と 専門知識	◎	◎						
	DP3	課題解決力、表 現力			◎	◎	◎			
	DP4	多様な他者を 尊重し、協働す る力						○	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について—すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために—（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

現代応用経済学科は、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけるために、全ての学士課程の基盤となる教育の質向上を目指す「駒澤人育成基礎プログラム」を構築し、各学部・学科の専門教育科目とシームレスに接続させ、有機的に結びつけた4年間の教育課程を編成する。教育課程の体系性をわかりやすく明示するために、科目間の関連性や学修順序を示すナンバリングや履修系統図（カリキュラム・マップ）を作成する。また、アセスメント・ポリシー（評価の方針）を策定し、これに基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的レベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを

身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。

- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育科目では、経済学を学ぶ上での基礎・基本となる導入教育科目を初年次に配置し、2年次よりコミュニティ経済やビジネス経済を対象とする専門科目の系統的な学習を促進する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習・実習科目、及び新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) 演習科目（ゼミ）では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステム等の Web システムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学共通科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。	
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。	
		初年次教育科目			◎	高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。	
		キャリア教育科目	○			◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目			◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める
	保健体育科目					○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
専門教育科目	導入教育科目			◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。
	講義科目			◎			専門分野の知識を体系的に身につける。
	実験科目			◎			実験装置や器具の使い方を身につけ、実際にそれらを使用した研究を行う。
	実習科目			◎	○	○	専門分野の講義で身につけた知識を基に、実地調査や体験学習等を行う。
	演習科目				◎	○	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
	卒業論文・卒業研究・資格試験など		○		◎	○	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文の作成や資格試験の受験などを行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

現代応用経済学科は、駒澤大学及び経済学部入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 現代応用経済学科の求める学生像

(AP1) 駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、現代応用経済学科で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つ。

(AP2) 入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を有している。

(AP3) 課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識を持ち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果をビジネスの視点とコミュニティの視点の両面から、他者にわかりやすく説明することができる。

(AP4) 他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

1) 入学前に修得することが望ましい教科

- ・外国語：大学での学びを通じて多様性の理解とこれを尊重する能力の取得が求められる。そうした能力取得へのアプローチのひとつとしての英語を中心とした外国語に興味を持ち、基礎的な4技能（聞く・話す・読む・書く）を意識的に学んでいること。
- ・国語：大学での学びを通じて、レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を取得し、自らの考えを論理的かつ明確に伝えることで他者と主体的に協働することができるようになるためにも、基礎的な文献の読解力のみならず、自らの意見を発信する力を有していること。
- ・数学：経済学の知識を体系的に身につけるためにも、高校までの授業を通じて日常生活や社会の事象などを数理的にデータとして捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決しようとする論理的思考力を身につけていること。
- ・地理歴史・公民：大学での学びを通じて体系的に修得した専門分野の知識・技能・技術を実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用できるようになるためにも、入学前から社会現象を多面的な視点から理解し、政治、経済、地理ならびに歴史に関してできるだけ幅広く学習していること。
- ・情報：多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じて情報通信技術を効果的に使い、社会における問題の発見・解決に活用できるようになるためにも、情報の価値や使い方に関する基礎的な知識を身につけていること。

2) 取り組むべき活動や学習習慣

大学での学びを通じて、幅広い教養を身につけ新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献できる人材になるためにも、大学入学の能力として、私たちの社会がどのように構成されているのか、どのように動いているのかという点に興味を持って新聞や社会ニュースに目を通し、わからないことがあったら自分で調べるといふ姿勢を身につけておくことが望ましい。

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

選抜区分		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	選抜制度の目的および特徴
一般選抜	全学部統一日程	筆記試験	◎		○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
	T方式	筆記試験	◎		○		
大学入学共通テスト利用選抜	前期	筆記試験	◎		○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
	中期	筆記試験	◎		○		
総合型選抜	自己推薦選抜（総合評価型）	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的に、出願書類、小論文および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
学校推薦型選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題	◎		○		
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題	◎		○		
	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特に理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好な学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
事前課題		◎		○			

	全国商業高等学校長協会特別推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、かつ商業に関する知識・技能に秀で、全国商業高等学校長協会の推薦を得られた学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。	
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎		
	指定校編入学者選抜	出願書類	○	○		○		本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的とする。また多様な経験を有する学生受け入れにより、学内の活性化を図る。
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎		
その他選抜	社会人特別選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、実社会での豊かな経験を有し、高い専門性を取得した勉学意欲旺盛な社会人の受け入れを目的に、出願書類、小論文等、筆記試験等および面接・口頭試問にて判断する。	
		小論文	◎	○	◎	◎		
		英語	○					
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎		
	国際型選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。	
		事前課題	◎		○			
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎		
	外国人留学生選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れを目的に、出願書類、「日本留学生試験」結果、小論文等、および面接・口頭試問にて判断する	
		日本留学試験（成績）	○					
		小論文等	◎		○			
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎		
	編入学者選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、大学入学後の進路変更や学び直しを希望する学生、および多様な経験を有する学生を受け入れることを目的に、出願書類、小論文等、英語試験および面接・口頭試問にて判断する。	
		小論文等	◎					
		英語	◎					
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎		